

おりひがっこ

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

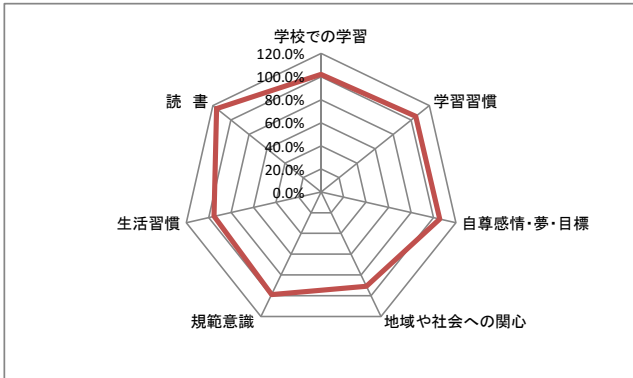
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> これまでの地道な努力が功を奏し、今年度は全国平均を上回っている。書く能力の問題は苦手としている本校の子どもたちであるが、伝え合いの練習をしてきた成果が出てきたのか、本や文章全体を効果的に読む取組ができていた。これからも、いろいろな場面で書く活動を取り入れて力を伸ばしていきたい。 自分の考えを表現する際には、漢字を正しく使ったり、主述を整えたりすることに気を付けさせたい。 	上回っている
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均を下回っており、続けて努力が必要である。苦手としている説明等を記述する問題については、説明で「長方形」「三角形」を明確に示すことができていないことが課題として残った。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問では肯定的回答が高く、自己肯定感・自尊感情をもつことができていたと考えられる。

「授業では課題に対して自ら考え自分から取り組んでいたと思いますか」という質問では全国平均を上回っている。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「読者は好きです」と答えた児童が今年度は全国平均を大きく上回っていた。話し合うこと、読むことの楽しさや良さを実感させる授業に、取り組んでいる成果がでている。

「朝食を毎日食べていますか」の質問には、肯定的回答が全国平均と並んでいた。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 日々の授業の中で、考え、表現する(書く)活動を確保するように努める。
- 「授業改善シート」を効果的に活用し、「1単位時間の中に『話し合う活動』と『書く活動』」を意識するようになっていく。
- 楽しく本を読む習慣を継続させていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習について、「折東っ子スタンダード家庭編」に示されている、低学年15分、中学年30分、高学年45分以上の学習時間の習慣が定着するように、学年通信・学校だより等で引き続き家庭に周知していく。
- 家庭の協力により、毎日朝食を食べる習慣が定着してきた。生活のリズムも整い、学習にも力が発揮できる。ゲームをする時間、スマホなどでネットに触れる時間が全国平均よりも多いため、保護者に懇談会や学校通信等で周知していく。